

音楽 I

総合学科

教科	芸術	単位数	2単位	対象	1年次	選択群	
使用教科書	MOUSA 1 (教育芸術社)			副教材等		履修	必修・選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
<p>歌唱、器楽、鑑賞、創作など様々な形態での音楽活動を行います。活動する上で必要な基本的な音楽理論(楽典)を理解した上で、日本に限らず世界各国の音楽に親しんでいきます。選択者数によって授業内容を変更させることがあります。</p>			<p>・基本的な楽典を理解できる。 ・音楽に対する興味・関心を深め、積極的に活動できる。 ・音楽的感性・技能を身に付け、創造的に表現し、根拠を持って批評することができる。</p>			<p>・音楽に興味があること。 ・音楽に関係する進路を検討している生徒。</p>	
学年間の計画	月	単元名	項目	学習内容			
	4月	・リエンテーション ・歌唱 ・ポピュラーソング	・楽典(年間通して) ・校歌 ・Lemon、負けないで	・読譜、記譜 ・暗唱 ・発声法、姿勢、記号の意味			
	5月	・イタリアの音楽(歌唱、鑑賞)	・O sole mio ・Caro mio ben	・歌詞の解釈、表現の工夫 ・カンツォーネについて			
	6月	・器楽	・ギターに挑戦 ・弾き歌い	・ギター音楽の鑑賞、ギターの構造 ・調弦、奏法、音階練習、練習曲 ・器楽アンサンブルについて			
	7月	・鑑賞、音楽史	・西洋音楽史	・各時代ごとの鑑賞			
	9月	・器楽、鑑賞	・篠笛	・姿勢、記号の確認 ・運指、タンギング			
	10月	・諸民族の音楽(鑑賞)	・諸民族のリズム、楽器	・各地域ごとに鑑賞			
	11月	・ドイツの音楽(歌唱、鑑賞)	・Heidenröslein	・発声法、姿勢の実践			
	12月	・歌唱 ・アンサンブル	・2重唱「翼をください」 ・Plymouth Rock	・ハーモニーの練習 ・読譜、記号の確認			
	1月	・鑑賞、音楽史	・西洋音楽の鑑賞 歌劇「カルメン」	・歌劇について			
	2月	・創作	・創作、編曲	・記譜法の基礎			
	3月	・合唱	・合唱	・パート練習 ・合唱			
	学習方法	<p>【予習】 次の時間に学ぶ作品の譜読みや、記号の意味などを調べておきましょう。 【授業】 定期考査を実施しないため、授業での取組が重要です。活動が中心ですから、積極的に楽しく活動しましょう。 【復習】 実技は個人練習が必要な場合があります。また、普段からなるべく様々なジャンルの曲を聴くようにしてください。</p>					
評価の観点・評価規準・評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	音楽の基礎(楽典)を身に付け、曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。		自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。		主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。		
	評価方法		第1・2学期		第3学期		年度末
※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A: 主に考査による観点別評価 B: 主に授業等の活動による観点別評価		実技点: 7割 B: 3割 実技点は授業中の実技テストや活動点。Bは、授業態度(発表等)、積極性、活動意欲、提出物、出欠状況		実技点: 7割 B: 3割 実技点は授業中の実技テストや活動点。Bは、授業態度(発表等)、積極性、活動意欲、提出物、出欠状況		1学期、2学期、3学期の成績を統合し、夏季、冬季の課題も含め、年間の学習成績として評価。	
備考	・各自でファイルを用意してください。						

音楽Ⅱ

総合学科

教科	芸術	単位数	2単位	対象	2年次	選択群	J①群
使用教科書	MOUSA 2 (教育芸術社)			副教材等			履修 必履修・ 選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
様々な活動を通して基本的な知識を広げることによって生涯にわたって音楽を愛好するための力を伸ばします。また、音楽的な知識が必要となる進路を選択する生徒のために基本的なソルフェージュを行い、楽典の基礎知識の定着を目指します。			・音楽の諸要素を理解できる。 ・音楽の様々な形態を理解し、創意工夫して表現できる。 ・楽曲の背景を理解し、根拠をもって批評することができる。			・音楽Ⅰを履修していること。 ・教育関係（特に幼児教育、小学校教諭、中・高音楽科教諭）や音楽に関係する進路を検討している生徒を対象としています。	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4月	・オリエンテーション ・ソルフェージュ	・楽典（通年） ・ソルフェージュ（通年）	・読譜について ・記譜について			
	5月	・歌唱	・ハナミズキ ・浜辺の歌 ・からたちの花	・日本語の発音・発声について ・日本歌曲の特徴について			
	6月	・鑑賞	・西洋音楽史	・各時代ごとの鑑賞			
	7月	・鑑賞	・La Boheme	・オペラの歴史・特徴について			
	9月	・歌唱	・Nei cor non mi sento ・Quando men'vo, soletta per la via	・イタリア語の発音について ・イタリア歌曲の発声について			
	10月	・器楽	・ギター弾き歌い「天体観測」	・コード、セーハ、ストロークについて			
	11月	・鑑賞	・日本の伝統芸能	・日本音楽史 ・琵琶楽・文楽・歌舞伎・長唄			
	12月	・歌唱・鑑賞	・オペラ座の怪人 ・The Phantom of the Opera ・All I Ask of You	・ミュージカルの歴史・特徴について ・ミュージカルの発声について			
	1月	・創作	・Happy Birthday to you	・旋律の雰囲気のアレンジ ・演奏スタイルのアレンジ			
	2月	・合唱	・上を向いて歩こう	・アカペラの歌い方について			
	3月						
学習方法	<p>〔予習〕 次の授業で学ぶ作品の譜読みや、楽譜上の音楽記号の意味を調べておきましょう。</p> <p>〔授業〕 定期考査でのペーパーテストは実施しないため、授業での取り組んだ表現活動が評価の対象となります。主体的・意欲的に活動しましょう。</p> <p>〔復習〕 実技テストに向けて、習った曲は個人練習を行うようにしましょう。</p>						
評価の観点・評価規準・評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	音楽の基礎（楽典）を身に付け、曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。		自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。		主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。		
※ 上記の観点に基づき、各学期とも評価する。 A：主に考査による観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価	評価方法		第1・2学期		第3学期		年度末
	実技点：7割 B：3割 実技点は授業中の実技テストや活動点。Bは、授業態度（発表等）、積極性、活動意欲、提出物、出欠状況		実技点：7割 B：3割 実技点は授業中の実技テストや活動点。Bは、授業態度（発表等）、積極性、活動意欲、提出物、出欠状況		1学期、2学期、3学期の成績を統合し、夏季、冬季の課題も含め、年間の学習成績として評価。		
備考	・各自でファイル（A4）を用意してください。						

音楽Ⅲ

総合学科

教 科	芸術	単位数	2 単位	対象	3 年次	選択群	P②群					
使用教科書	Joy of Music (教育芸術社)			副教材等			履修	必履修・ 選択				
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路						
1・2年次で学んだ内容をもとに、様々な活動を通して基本的な知識を深め、将来にわたって音楽を愛好するための力を伸ばします。また、音楽的な知識が必要となる進路のために、楽典の理解度の発展を目指します。			<ul style="list-style-type: none"> 音楽の諸要素を理解し、主体的に表現に活用できる。 音楽の様々な形態を理解し、工夫して表現できる。 楽曲の背景を理解し、根拠を持って批評することができる。 			<ul style="list-style-type: none"> 教育関係（特に幼児教育や小学校教諭、中・高音楽科教諭）や音楽に関係する進路を検討している生徒を対象としています。 						
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容								
	4月	・オリエンテーション ・日本歌曲	・楽典（年間を通して） ・星めぐりの歌 ・初恋	<ul style="list-style-type: none"> 音階、和声、音程、楽語の意味等 日本語の美しい発音について 日本歌曲に適した発声 								
	5月	・ドイツリート	・すばらしく美しい五月に	<ul style="list-style-type: none"> シューマン・ハイネについて 連作歌曲について 								
	6月			・器楽アンサンブル	・間奏曲（マスカーニ）	<ul style="list-style-type: none"> キーボードを用いたアンサンブル 全体のバランスのとり方 						
	7月	・イタリア歌曲 ・ピアノ連弾 ・ミュージカル ・コード	<ul style="list-style-type: none"> かぎりなく優雅な絵姿 主題（古畑任三郎から） レ・ミゼラブル 夢やぶれて コードによる伴奏付け 			<ul style="list-style-type: none"> 音楽用語の理解と表現 独唱の豊かな表現 曲の雰囲気を活かした連弾 休符の正確な感じ方 ミュージカルと社会情勢との関わり 音楽による心情表現 コードの理解 構成音の配置と伴奏の工夫 						
	9月			・ボディパーカッション ・アカペラ	<ul style="list-style-type: none"> クラップ・パット・タップ 宇宙戦艦ヤマト 揚げば尊し 	<ul style="list-style-type: none"> リズムの組み合わせや奏法による音色の違い 各パートの役割の理解 曲に合った表現の工夫 唱歌の歴史その意義 						
	10月					・唱歌						
	11月											
	12月											
	1月											
	2月											
	3月											
	学習方法	<p>【予習】 次の時間に学ぶ曲を事前に聴いたり、楽語の意味を調べたりしましょう。</p> <p>【授業】 定期考査の実施がないため、授業での演奏活動や鑑賞活動が重要です。どのジャンルの活動にも積極的に参加し、よりよい表現を追求しましょう。</p> <p>【復習】 実技は個人練習が必要な場合もあります。授業時間内でできない場合には、自主練習をして演奏の精度を上げましょう。</p>										
評価の観点・評価規準・評価方法	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度						
	<ul style="list-style-type: none"> 音楽のより専門的な知識や技能を身に付け、曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解しているか。 		<ul style="list-style-type: none"> 自己のイメージを持って音楽表現を創意工夫しようとしているか。また、楽曲の背景を理解し、根拠を持って批評する力を身に付けているか。音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感受しているか。 			<ul style="list-style-type: none"> 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むと共に、感性を高め、音楽文化に明るく親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養おうとしているか。 						
	評価方法		第1・2学期		第3学期		年度末					
	※上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に実技の観点別評価 B：主に授業中の活動全般による観点別評価		実技点：7割 B：3割 実技点は授業中の実技テストや演奏活動の点。 Bは授業態度、活動意欲、提出物、出欠状況など。		実技点：7割 B：3割 実技点は授業中の実技テストや演奏活動の点。 Bは授業態度、活動意欲、提出物、出欠状況など。		1学期・2学期・3学期の成績を統合し、夏季・冬季の課題も含め、年間の学習成績として評価する。					
備考	<ul style="list-style-type: none"> 各自でファイルと五線譜を用意してください。 											

美術 I

総合学科

教科	芸術	単位数	2単位	対象	1年次	選択群	
使用教科書	美術 1 (光村図書出版)			副教材等		履修	<input checked="" type="checkbox"/> 履修・選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
<p>絵画、彫刻、デザインなど、美術の様々な分野の基礎的な創作活動を行います。自分が感じたこと、考えたことを作品に表現したり、鑑賞活動を通して作品から感じたことを言葉で表現したりするなど、美術に親しむ体験をしていきます。</p>			<p>・鉛筆、絵の具、筆など基本的な用具の使い方を理解できる。 ・基本的な美術の感性・技能を身に付け、創造的に自己表現することができる。 ・友人の作品から良さを感じ取ることができる。</p>			<p>・音楽 I、書道 I を選択する場合は同時に履修することはできません。</p>	
学習の年間計画	月	単元名	項目	学習内容			
	4月	・オリエーション ・デザイン	・美術 I の学習と意義	・美術 I の年間の学習について			
	5月	・絵画	・鉛筆デッサン (基本シェイプ) ・鉛筆デッサン (人物イラスト)	・鉛筆の基本的な使い方 ・基本シェイプの理解と使い方 ・サークルドローイングとジェスチャードローイングの技法を学ぶ			
	6月	・デザイン	・色彩について ・書籍のタイトル文字デザイン	・人物などの複雑な形態のものの描き方を学ぶ ・色彩の基本理論について学ぶ			
	7月	・デザイン	・人権ポスター	・レタリングの基本と文字の造形方法を学ぶ ・夏休みの宿題のアイデアを練る			
	9月	・絵画	・線遠近法を使用したペン画 (室内風景)	・線遠近法 (2点透視) の基本原理を理解する ・視高と消失点を利用して描く ・仕上げ、相互鑑賞			
	10月	・デザイン	・商品のバッグを作る	・ロゴタイプデザインの基礎理論を理解する ・布地への着色技法を身に付ける ・刷り、相互鑑賞			
	11月	・鑑賞	・作家の人生と作風 パブロ・ピカソ	・ピカソの生涯や作品を知り、新たな表現を追求する姿勢を感じ取る。			
	12月	・デザイン	・敷き詰めイラストレーション	・敷き詰めの方法について理解する。 ・偶然にできた形などを利用し、アイディアを決定する ・全体と細部の関係を意識しながら造形する ・仕上げ、相互鑑賞			
	1月	・鑑賞	・仏像の美	・四天王立像の造形表現に親しむ ・骨格と立体構造を利用した造形について学ぶ ・粘土塑造の技法について学ぶ			
	2月	・立体	・塑像 (ミニ動物)	・1年間の反省と感想			
	3月	・まとめ	・美術 I の1年を振り返る				
	学習方法	<p>【予習】 準備物を忘れないようにしましょう。作品のイメージを考えておきましょう。 【授業】 作品制作が中心になります。作品は、上手い・下手よりも、一生懸命取り組んだかどうか重要です。集中して制作活動に取り組み、自分の気持ちを作品で精一杯表現しましょう。 【復習】 作品の進み具合が他の人より遅れている場合は、授業外でも制作を進めておきましょう。</p>					
評価の観点・評価規準・評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	<p>・創造的な表現をするために、表現材料や表現形式を選択し、効果的に生かす技能を身に付けているか。</p>		<p>・感性や想像力を働かせて自然や身の回りの造形、芸術作品などのよさや美しさを感じ取り、主題を生成し、表現を構想しているか。</p>		<p>・美術を愛好し、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動に取り組み、その喜びを味わい、創造的な表現と鑑賞の能力を身に付けようとしているか</p>		
評価方法	評価方法		第1・2学期	第3学期	年度末		
	<p>※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に考查による 観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価</p>		<p>実技点：7割 B：3割 実技点は作品点で、Bは、授業態度、自己評価、出欠状況等を評価します。</p>	<p>実技点：7割 B：3割 実技点は作品点で、Bは、授業態度、自己評価、出欠状況等を評価します。</p>	<p>1学期、2学期、3学期の成績を統合し、夏季、冬季の課題も含め、年間の学習成績として評価します。</p>		
備考							

美術Ⅱ

総合学科

教科	芸術	単位数	2単位	対象	2年次	選択群	J①群	
使用教科書	美術2(光村図書出版)			副教材等			履修 必履修・ 選択	
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路		
美術Ⅰで学んだことを踏まえてさらに高度な創造活動を行います。多様な手法を学び、自分に合った表現方法を追求していきます。また鑑賞においては、作品との対話からより豊かな鑑賞と美術文化への理解を目指します。			<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な技術に加えて様々な技法を習得し、用具や材料も効果的に使える。 様々な表現に目を向け、鑑賞を楽しむことができる。 美術文化への理解を深められる。 			・1年次に美術Ⅰを履修した生徒に限ります。		
学習の年間計画	月	単元名	項目	学習内容				
	4月	・オリエンテーション	・美術Ⅱの学習と意義	・美術Ⅱの年間の学習について				
	5月	・絵画	・基本デッサン	<ul style="list-style-type: none"> 基本的なパース図の表現について学ぶ 基本形体の表現について学ぶ 基本立体を組み合わせて構成する方法を学ぶ 				
	6月	・鑑賞	・顔を描く(デッサン)	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な頭部の造形について学ぶ 仕上げ、相互鑑賞 				
	7月			・ボス「誘惑に打ち勝つ聖人」	・絵画の中のモチーフ意味や役割を理解し、その表現方法のユニークさを味わう			
	9月	・絵画	・顔を描く(油絵)	<ul style="list-style-type: none"> 油絵の画材の使い方と基本的な描き方について学ぶ 仕上げ、相互鑑賞 				
	10月	・デザイン	・店舗のブランディングデザイン	<ul style="list-style-type: none"> 「川之石街並み」レンガ建築物内の店舗のブランドデザインと派生デザインを制作する ブランド制作の手順について理解する 仕上げ、相互鑑賞 				
	11月			・鑑賞	・作家の人生と作風 コンスタンチン・ブランクーシ	・人物と表現様式について学ぶ		
	12月	・塑像	・手を造る	<ul style="list-style-type: none"> 塑像の素材や道具について理解する 全体と部分の関係意識しながら造形する 仕上げ、相互鑑賞 				
	1月	・鑑賞	・映像メディア表現 『デザインあ』を見る	<ul style="list-style-type: none"> 映像表現の技法や仕掛けについて考える 				
	2月			・まとめ	・美術Ⅱの1年を振り返る	・1年間の反省と感想		
	3月							
	学習方法	<p>【予習】 準備物を忘れないようにしましょう。作品のイメージを考えておきましょう。</p> <p>【授業】 作品制作が中心になります。作品は、上手い・下手よりも、一生懸命取り組んだかどうか重要です。集中して制作活動に取り組み、自分の気持ちを作品で精一杯表現しましょう。</p> <p>【復習】 作品の進み具合が他の人より遅れている場合は、授業外でも制作を進めておきましょう。</p>						
評価の観点・評価規準・評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	・創造的な表現をするために、表現材料や表現形式を選択し、効果的に生かす技能を身に付けているか。		・感性や想像力を働かせて自然や身の回りの造形、芸術作品などのよさや美しさを感じ取り、主題を生成し、表現を構想しているか。		・美術を愛好し、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動に取り組み、その喜びを味わい、創造的な表現と鑑賞の能力を身に付けようとしているか			
	評価方法		第1・2学期		第3学期		年度末	
<p>評価方法</p> <p>※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。</p> <p>A：主に考査による 観点別評価</p> <p>B：主に授業等の活動による 観点別評価</p>		<p>実技点：7割 B：3割</p> <p>実技点は作品点で、Bは、授業態度、自己評価、出欠状況等を評価します。</p>		<p>実技点：7割 B：3割</p> <p>実技点は作品点で、Bは、授業態度、自己評価、出欠状況等を評価します。</p>		<p>1学期、2学期、3学期の成績を統合し、夏季、冬季の課題も含め、年間の学習成績として評価します。</p>		
備考								

美術Ⅲ

総合学科

教科	芸術	単位数	2単位	対象	3年次	選択群	R①群
使用教科書	美術3(光村図書出版)			副教材等		履修	必履修・ 選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
美術Ⅰ、Ⅱの学習を踏まえて自己のテーマを設定し、テーマに沿った表現方法で制作を進める。創造活動を通して様々な発見や驚きを体験し、表現能力や技能を一層高めるとともに、鑑賞を通して社会と美術との関わりや美術文化への理解をさらに深める。			<ul style="list-style-type: none"> 美術Ⅰ、Ⅱで学んだことを生かし、各自の研究テーマに沿って個性豊かに表現することができる。 1、2年次の学習を理解し、3年間のまとめをする。 			<ul style="list-style-type: none"> 2年次に美術Ⅱを履修した生徒に限ります。 	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4月	・リエンテーション ・デザイン	・美術Ⅲの学習と意義 ・文様を作ろう	<ul style="list-style-type: none"> 美術Ⅲの年間の学習について 世界の文様について調べ、基本原理などを学ぶ ユニット(原型)を制作し、並べて着色し、仕上げる。 			
	5月	・絵画・立体	・レリーフ絵画	<ul style="list-style-type: none"> アルチンボルドの敷き詰め人物絵画を鑑賞する 浮き彫りによる立体表現と陰影法による立体表現の方法を学ぶ 固有色や全体と部分のバランスを意識して採色する 			
	6月						
	7月						
	9月	・絵画・立体 ・鑑賞	・作家の人生と作風 田中一光 ・等角投象による建築物イラスト	<ul style="list-style-type: none"> 仕上げ、相互鑑賞 デザイナーの仕事と社会との関わりを考える 			
	10月	・絵画		<ul style="list-style-type: none"> 等角投象の原理と表現方法について学ぶ 造形の基本方法を利用しながら創作する 			
	11月	・デザイン	・ホームページの制作	<ul style="list-style-type: none"> 情報収集の方法について理解する デザインの要素と原理について理解する ドロー系グラフィックソフトについて理解する HTMLやCSSの仕組みについて理解する 			
	12月						
	1月	・デザイン	・作家の人生と作風 現代美術の在り様 ・美術Ⅲの1年を振り返る	<ul style="list-style-type: none"> 仕上げ、相互鑑賞 			
	2月	・鑑賞 ・まとめ		<ul style="list-style-type: none"> 現代美術作品を鑑賞する 社会と美術との関わりについて考える 			
	3月			<ul style="list-style-type: none"> 1年間の反省と感想 			
学習方法	<p>【予習】 各自、制作に必要な準備物を忘れないようにしましょう。作品のイメージを考えておきましょう。</p> <p>【授業】 3年間の総まとめですので、集大成になるよう、授業に集中して精一杯制作しましょう。</p> <p>【復習】 自主制作は、計画的に進めることが重要ですので、授業外でも課題意識を持っておきましょう。</p>						
評価の観点・評価規準・評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	・創造的な表現をするために、表現材料や表現形式を選択し、効果的に生かす技能を身に付けているか。		・感性や想像力を働かせて自然や身の回りの造形、芸術作品などのよさや美しさを感じ取り、主題を生成し、表現を構想しているか。		・美術を愛好し、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動に取り組み、その喜びを味わい、創造的な表現と鑑賞の能力を身に付けようとしているか		
	評価方法		第1・2学期	第3学期	年度末		
※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に考查による 観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価		実技点：7割 B：3割 実技点は作品点で、Bは、授業態度、自己評価、出欠状況等を評価します。	実技点：7割 B：3割 実技点は作品点で、Bは、授業態度、自己評価、出欠状況等を評価します。	1学期、2学期、3学期の成績を統合し、夏季、冬季の課題も含め、年間の学習成績として評価します。			
備考							

書道 I

総合学科

教科	芸術	単位数	2単位	対象	1年次	選択群	
使用教科書	書道 I (東京書籍)			副教材等		履修	必履修・選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
<p>「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」について表現方法を学び、実際に筆で書いていきます。「漢字の書」「仮名の書」については主に古典の臨書によって練習します。2学期には川高祭に出品します。</p>			<p>・古典作品の用筆、運筆、字形の特徴をとらえて臨書ができる。 ・線質、字形、全体構成などを工夫して自己表現ができる。 ・書を愛好する心情や態度、更に鑑賞能力を身に付ける。</p>			<p>・1年次生は音楽 I・美術 I・書道 Iの中からの選択です。</p>	
学年 の 習 問 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4月	一 漢字の書	1 用具・用材 (文房四宝) 2 姿勢・執筆法 3 書写の確認 4 書写から書道へ	<ul style="list-style-type: none"> ・文房四宝の特性の理解とその選択による効果的な表現 ・良い姿勢と正しい執筆法 ・書道 I の目標と書写との関連 ・いろいろな線による表現の広がり (起筆の穂先の向き違いによるさまざまな線の表現など) 			
	5月		5 漢字の成立と変遷 6 楷書	<ul style="list-style-type: none"> ・書体の特徴と変遷 ・楷書の用筆法・運筆法・結構法 ・楷書の成立と唐の四大家 ・古典に基づく学習 (臨書) ・臨書・鑑賞 			
	6月		7 落款と篆刻 8 行書 9 隸書 10 創作 (学んだ古典の特徴を生かして創作)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の落款印の作成と効果的な押印 ・行書の用筆と字形、特徴 ・臨書・鑑賞「蘭亭序」「風信帖」 ・隸書の基本用筆と特徴 ・臨書・鑑賞「曹全碑」「乙瑛碑」「木簡 ・創作ノートの活用 			
	7月						
	9月	○川高祭に向けて	・ 川高祭出展作品の制作	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の構想を練る (臨書か創作か、語句と書体の選定、作品の規模、全体構成など) ・作品制作、作品の完成と落款 ・展示準備 			
	10月	二 仮名の書	1 仮名の成立と用具・用材 2 仮名の筆使い 3 平仮名の単体と変体仮名 4 連綿 5 臨書と鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・仮名の成立、仮名の種類及び仮名用の筆・墨・紙 ・基本的な筆使い (縦の線・横の線、転折・円運動・結び) ・「いろは歌」を書く ・連綿のリズムや流れ ・臨書と鑑賞「高野切第一種」 			
	11月						
	12月						
	1月	三 漢字仮名交じりの書	1 いろいろな線による表現の広がり 2 用具用材による表現の変化 3 紙面構成のバリエーション 4 創作	<ul style="list-style-type: none"> ・線質の調和 (言葉や意図に合った表現を考える) ・紙、墨色、墨量、筆による変化と効果的な表現方法 ・字形、文字の大きさと全体構成 ・いろいろなバリエーションでの表現 			
	2月						
	3月	四 生活の中の書	1 硬筆 2 実用の書	<ul style="list-style-type: none"> ・便せんの書式、葉書・封筒の書式 ・贈答用語の書き方 			
	学習方法	<p>【予習】 書道用具を忘れないように確認しておきましょう。 【授業】 姿勢、執筆法に気をつけて、表現を工夫しながら意欲的に書いていきましょう。また、古典作品や友人の作品も参考にし、自己表現に生かしていきましょう。 【復習】 普段から身の回りにある書や手書き文字に興味をもち、学習に取り入れましょう。</p>					
評価の観点・評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な線質の表現と用筆、運筆の関係を理解する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・古典の書の美しさを感じ、その技法を学び、普遍性のある表現力を探求する。 ・字形や文字の大小、全体の構成など表現を工夫する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・書を愛好し、書写能力の向上に努める。 ・意欲的・主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わう。 		
評価規準・評価方法	評価方法		第1・2学期		第3学期		年度末
	<p>※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に考査による 観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価</p>		<p>作品点：6割 B：4割 Bは授業態度、提出物、授業準備等</p>		<p>作品点：6割 B：4割 Bは授業態度、提出物、授業準備等</p>		1・2・3学期の平均
備考							

書道Ⅱ

総合学科

教科	芸術	単位数	2単位	対象	2年次	選択群	J①群
使用教科書	書道Ⅱ（東京書籍）			副教材等		履修	必履修・選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
書道Ⅰと同様に「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」について鑑賞と臨書を中心にして学習していきますが、3学期にはその中の一つの領域を選択し、より深く学びます。また、書の歴史や文化についても理解を深めます。			<ul style="list-style-type: none"> 書の様々な表現について理解し、技法を習得する。 書の文化や伝統についての理解を深め、鑑賞力を身に付け、表現に生かせるようになる。 			<ul style="list-style-type: none"> 1年次に書道Ⅰを選択した人に限ります。 	
学年間の計画	月	単元名	項目	学習内容			
	4月	一 漢字の書	1 篆書 臨書と鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> 篆書の用筆・運筆と結構「石鼓文」 隸書の用筆・運筆と結構「礼器碑」「開通褒斜道刻石」 運筆の変化と抑揚「書譜」 率意の書「祭姪文稿」 内含の書「薦季直表」 用具、用材の特徴とその選択による表現効果 印のまとめ方、生活の中の刻字 			
			2 隸書 臨書と鑑賞				
	5月		3 草書 臨書と鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名・変体仮名 連綿による文字の表現の変化とつなげ方の工夫 			
			4 行書 臨書と鑑賞				
	6月	二 仮名の書	5 楷書 臨書と鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> 「高野切第一種」「針切」 「曼殊院本古今和歌集」 「寸松庵色紙」 			
			6 創作				
	7月		7 篆刻・刻字	<ul style="list-style-type: none"> 作品の構想を練る（臨書か創作か、語句と書体の選定、作品の規模、全体構成など） 作品制作、作品の完成と落款 展示準備 			
			1 仮名の美				
	9月	〇 川高祭に向けて	2 仮名一覧表	<ul style="list-style-type: none"> 「始平公造像記」「争坐位文稿」「関戸本古今和歌集」に基づく表現 書体・書風や用具・用材の工夫 言葉と書の構成、表現の工夫 生活や社会の文字や書 			
			3 連綿				
	10月	三 漢字仮名交じりの書	4 仮名 臨書と鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> 「漢字仮名交じりの書」「漢字の書」「仮名の書」の中から自分の追究したい領域を選択 各領域から古典作品を選び、臨書をする。（「漢字仮名交じりの書」については漢字古典から） 創作 作品の発表と批評会 			
			5 行書きの美				
11月		6 散らし書きの美					
		〇 書を深める					
12月		・領域をしぼり、書の深化をはかる					
		1 古典を生かした表現					
1月		2 自分の意図に応じた表現					
		3 言葉と書の調和					
2月		4 書で発信しよう					
		3月					
3月							
学習方法	<p>【予習】 書道用具を忘れないように準備しておきましょう。</p> <p>【授業】 表現を工夫しながら意欲的、主体的に書いていきましょう。また、古典作品や優れた作品をしっかりと鑑賞しましょう。</p> <p>【復習】 自主制作する上では、普段から課題意識をもって、様々な作品等に触れておきましょう。また、臨書や創作作品を学園祭や県内外の公募展へ出品したりもします。</p>						
評価の観点・評価規準・評価方法	知識及び技能		思考力・判断力・表現力等		学びに向かう力、人間性		
	<ul style="list-style-type: none"> 書の表現や形式、多様性などについて理解を深め、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を育成する。 		<ul style="list-style-type: none"> 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。 		
	評価方法		第1・2学期	第3学期	年度末		
備考	<p>評価方法</p> <p>※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。</p> <p>A：主に考查による観点別評価</p> <p>B：主に授業等の活動による観点別評価</p>		<p>作品点：6割 B：4割</p> <p>Bは授業態度、提出物、授業準備等</p>	<p>作品点：6割 B：4割</p> <p>Bは授業態度、提出物、授業準備等</p>	1・2・3学期の平均		

書道Ⅲ

総合学科

教科	芸術	単位数	2単位	対象	3年次	選択群	S①群		
使用教科書	書道Ⅲ（東京書籍）			副教材等		履修	必履修・ 選択		
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路			
書道Ⅰ、Ⅱで学習した内容を踏まえ、「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」について鑑賞と臨書を中心に学習していきます。その中から自分のテーマを設定し、自主活動を通して、より深く表現能力・技術・鑑賞力を高めていきます。			<ul style="list-style-type: none"> 書の様々な表現について理解し、技法を習得する。 書の文化や伝統についての理解を深め、鑑賞力を身に付け、表現に生かせるようになる。 			<ul style="list-style-type: none"> 2年次に書道Ⅱを選択した人に限ります。 			
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容					
	4月	一 漢字の書	1 篆書 2 隸書 3 草書・行書	<ul style="list-style-type: none"> 篆書的美 臨書と鑑賞「散氏盤」 隸書的美 臨書と鑑賞「里耶秦簡」 草書・行書的美 臨書と鑑賞「喪乱帖」「李太白憶旧遊詩卷」 					
	5月		4 楷書	<ul style="list-style-type: none"> 楷書的美 臨書と鑑賞「爨宝子碑」 					
	6月		5 創作	<ul style="list-style-type: none"> 名言、名句を書こう 					
	7月	二 篆刻刻字 三 仮名の書	1 落款の書き方と用印法 1 院政期以降の仮名の美 2 創作	<ul style="list-style-type: none"> 落款の書き方と印の種類、鑑賞 臨書と鑑賞「本阿弥切古今和歌集」「秋萩帖」 大字仮名創作 					
	9月	〇 川高祭に向けて	・ 川高祭出展作品の制作	<ul style="list-style-type: none"> 作品の構想を練る（臨書か創作か、語句と書体の選定、作品の規模、全体構成など） 作品制作、作品の完成と落款 展示準備 					
	10月			三 漢字仮名交じりの書	1 創作 2 鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> 文言、形式等を自ら設定し、創作する 			
	11月					<ul style="list-style-type: none"> 現代に生きる書の価値とその効用について鑑賞を通して学ぶ 			
	12月	〇 書を深める	・ 領域をしぼり、書の深化をはかる	<ul style="list-style-type: none"> 「漢字仮名交じりの書」「漢字の書」「仮名の書」の中から自分の追究したい領域を選択 各領域から古典作品を選び、臨書をする。（「漢字仮名交じりの書」については漢字古典から） 創作 作品の発表と批評会 					
	1月								
	2月								
	3月								
	学習方法	【予習】 書道用具を忘れないように準備しておきましょう。							
【授業】 表現を工夫しながら意欲的、主体的に書いていきましょう。また、古典作品や優れた作品をしっかりと鑑賞しましょう。									
【復習】 自主制作する上では、普段から課題意識をもって、様々な作品等に触れておきましょう。また、臨書や創作作品を学園祭や県内外の公募展へ出品したりもします。									
評価の観点・評価規準・評価方法	知識及び技能		思考力・判断力・表現力等		学びに向かう力、人間性				
	<ul style="list-style-type: none"> 書の表現や形式、多様性などについて理解を深め、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を育成する。 		<ul style="list-style-type: none"> 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。 				
	評価方法		第1・2学期		第3学期		年度末		
評価方法 ※ 上記の観点を中心に、各学期とも評価する。 A：主に考查による 観点別評価 B：主に授業等の活動による 観点別評価		作品点：6割 B：4割 Bは授業態度、提出物、授業準備等		作品点：6割 B：4割 Bは授業態度、提出物、授業準備等		1・2・3学期の平均			
備考									

教科	芸術	単位数	2単位	対象	3年次	選択群	P①群
使用教科書	コールユーブンゲン (音楽之友社)			副教材等		履修	必履修・ 選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
<p>聴く(聴音)、歌う(視唱)を中心とした活動を通して音楽表現の力を養います。</p> <p>○聴音・リズム、旋律、和声などの音楽の諸要素を聴取する。</p> <p>○視唱・読譜を習得し、正しく歌う。</p> <p>基本的に個人レッスンの形態をとりますので、一人一人の習熟度の程度に応じた授業を行います。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜の基礎が理解できる。 ・リズム、旋律、和声を正確に聴き取ることができる。 ・正しい読譜、記譜ができる。 ・読譜をし、音高、リズムを正しく歌唱できる。 			<ul style="list-style-type: none"> ・音楽Iを履修した生徒に限る。(1年次、2年次どちらで履修していてもよい。) ・音楽関係の進路を検討している生徒を対象としています。 	
学習の年間計画	月	単元名	項目	学習内容			
	4月	・リエゾン ・歌唱 ・視唱 ・聴音	<ul style="list-style-type: none"> ・楽典(楽譜の基礎) ・発声 ・四分の四拍子 ・四分音符と四分休符 ・二分音符と二分休符 ・全音符、全休符 ・付点二分音符 	<ul style="list-style-type: none"> ・音符の名称、長さ、拍子、リズム、記譜法 ・呼吸法、発声 ・リズム練習 ・音程2度、3度 ・音域c～g ・音程完全4度まで、音域h～a ・音程6度まで、音域h～c ・リズム練習 ・楽典(調子) ・リズム練習 ・弱拍と八分休符 			
	5月						
	6月						
	7月		<ul style="list-style-type: none"> ・四分の二拍子、八分音符 ・八分休符、付点四分音符 	<ul style="list-style-type: none"> ・音程7・8度、 ・音域h～d ・八分音符、休符なし ・リズム練習 ・小節を越えるタイ ・リズムの混合 ・シンコペーション 			
	9月	<ul style="list-style-type: none"> ・視唱 ・聴音 ・楽典 	<ul style="list-style-type: none"> ・四分の三拍子 				
	10月						
	11月			<ul style="list-style-type: none"> ・八分の三拍子 ・八分の六拍子 			
	12月		<ul style="list-style-type: none"> ・調判定、移調 	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム練習 ・調判定の仕方と移調 			
	1月	<ul style="list-style-type: none"> ・視唱 ・聴音 ・視奏 	<ul style="list-style-type: none"> ・八分の三拍子 ・八分の六拍子 ・ピアノによる視奏 	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム練習、シンコペーション ・弱起 ・ピアノの基本的な奏法と運指 			
	2月						
	3月						
	学習方法	<p>【予習】 リズムのとり方の確認や基本的な楽典は分かるように復習しておいてください。</p> <p>【授業】 ソルフェージュは音楽表現の基礎能力を身に付けさせる科目であるため、授業の中で頻繁に実技(聴音、視唱)の確認テストを行います。</p> <p>【復習】 実技は個人練習が必要な場合があります。時間内に習得できなかった内容は個人で十分練習しておいてください。</p>					
評価の観点・評価規準・評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	<ul style="list-style-type: none"> ・読譜、記譜、視唱、視奏、聴音、楽典等のより専門的な知識や技能を身に付け、音楽の構造について理解しているか。 		<ul style="list-style-type: none"> ・読譜によって読み取ったものを、自己のイメージを持ってより良く表現しようとしているか。音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感受しているか。 		<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むと共に、感性を高め、音楽文化に明るく親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養おうとしているか。 		
	評価方法		第1・2学期	第3学期	年度末		
<p>評価方法</p> <p>※ 上記の観点を基に各学期とも評価する。</p> <p>A: 主に実技による観点別評価</p> <p>B: 主に授業全般の総合的な活動の観点別評価</p>		<p>実技点: 7割 B: 3割</p> <p>実技点は授業中の実技テストや活動点。Bは、授業態度(発表等)、積極性、活動意欲、提出物、出欠状況など。</p>	<p>実技点: 7割 B: 3割</p> <p>実技点は授業中の実技テストや活動点。Bは、授業態度(発表等)、積極性、活動意欲、提出物、出欠状況など。</p>	<p>1・2・3学期の成績を統合し、夏季・冬季の課題も含め、年間の学習成績として評価する。</p>			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の実技点は、聴取力、記譜能力、読譜力、視唱力、視奏力を総合的に評価する。 						

器楽

総合学科

教 科	芸 術	単位数	3 単位	対 象	3 年次	選択群	M 群
使用教科書	標準バイエルピアノ教則本 (全音楽譜出版社)			副教材等		履修	必履修・ 選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
ピアノを中心に器楽に関する専門的な学習を通して、楽譜の内容を理解し、表現するための基礎的な技術力・読譜力を身に付けます。また、コードを用いた伴奏付けの基礎理論を学びます。			<ul style="list-style-type: none"> ・楽器の独奏ができるようになる。 ・コードを用いた簡単な伴奏付けができるようになる。 			<ul style="list-style-type: none"> ・入試等で音楽的な内容が必要になる生徒。 ・卒業後の進路で楽器の演奏技術が必要になる生徒。 	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4 月	・リエンテーション	・ピアノの奏法について ・ハノン	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい演奏姿勢や運指について ・それぞれの指の独立のトレーニング 			
	5 月	・器楽	・バイエル	<ul style="list-style-type: none"> ・読譜と練習を繰り返し、曲数をこなします。難易度を徐々に上げていきます。 			
	6 月						
	7 月						
	9 月	・楽典 ・器楽	・和声 ・伴奏付け	<ul style="list-style-type: none"> ・和声の基礎 ・和声を用いた伴奏付けと試奏 			
	10 月						
	11 月	・器楽	・独奏曲	<ul style="list-style-type: none"> ・バイエル、ツェルニー、バッハ、シューマン等から自分に合った曲を選択して練習します。 			
	12 月						
	1 月	・器楽	・独奏曲	<ul style="list-style-type: none"> ・発表および鑑賞会 ・一年間のまとめ 			
	2 月						
	3 月						
	学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ・全て実技の授業になります。備考欄にもありますが、授業の時間だけでは十分な練習ができません。必ず個人練習のできる環境を整えておいてください。授業は集団レッスンの形式をとります。 ・できるだけ時間を作って、ピアノに触れるようにしましょう。 					
評 価 の 観 点 ・ 評 価 規 準 ・ 評 価 方 法	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノの基本的な奏法や正しい運指を理解し、技術が向上するように練習を繰り返しているか。身についた技術でよりよい音楽表現を追求しようとしているか。 		<ul style="list-style-type: none"> ・自己のイメージを持って音楽表現を創意工夫しようとしているか。また、楽曲の背景や、音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感じているか。 		<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・協働的に活動に取り組み、正垣にわたり音楽を愛好する心情を育むと共に、感性を高め、音楽文化に明るく親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養おうとしているか。 		
	評価方法		第 1・2 学期		第 3 学期		年度末
※上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：実技の観点別評価 B：主に授業中の活動全般の観点別評価		実技点：7割 B：3割 実技点は授業中の演奏活動や実技テストの点。 Bは授業態度や活動意欲、提出物や出欠状況など。		実技点：7割 B：3割 実技点は授業中の演奏活動や実技テストの点。 Bは授業態度や活動意欲、提出物や出欠状況など。		1 学期・2 学期・3 学期の成績を統合し、夏季・冬季の課題や練習量も含めて、年間の学習成績として評価する。	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・1 週間に 3 時間の授業、長期休業をはさんでの練習では十分な技術が得られません。継続して個人練習のできる時間と場所を確保してください。家にピアノがない場合は学校のピアノを利用することもできます。必ず事前に相談するようにしてください。(ただし、台数に限りがあります) 						

素描

総合学科

教 科	芸 術	単位数	2 単位	対象	2 年次	選択群	I 群	
使用教科書				副教材等	西東社「パース・陰影がうまくなる！」（松原美那子著）	履修	必履修・ 選択	
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路		
鉛筆や木炭をはじめ、各種のさまざまな描画材料を用いて、基本的な幾何形体や静物、石膏像等をモチーフに、デッサンやクロッキーのような素描活動を幅広く行います。			<ul style="list-style-type: none"> ・対象を観察し、素描によって物体を的確に表現することができる。 ・形を正確に捉えたり、明暗の微妙な変化を表現することができる。 ・技術の習得とともに、対象物の内面を追求する姿勢を身に付ける。 			<ul style="list-style-type: none"> ・美術系に進学希望者を始め、入試でデッサンを必要とする生徒に履修を勧めます。 ・前半の内容が同じなので、「ビジュアルデザイン」と合わせて履修はできません。 		
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容				
	4月	・デッサン（鉛筆）	<ul style="list-style-type: none"> ・素描の学習と意義 ・基本形体を利用して描く ・立体感の表現の方法を学ぶ ・人物を描く 	<ul style="list-style-type: none"> ・デッサンの形、明暗、構図 ・デッサンのために用いる道具の使い方 ・アタリや線の使い方 ・簡単な遠近法や陰影とグラデーションのつけ方を学ぶ ・質感の表現方法を学ぶ ・人物の比率や動きなど基礎知識を身に付ける ・骨格を利用し、肉付けする方法を学ぶ ・服の表現について学ぶ ・目や口などの部分の表現について学ぶ 				
	5月							
	6月							
	7月							
	9月	・デッサン（鉛筆） ・鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・人物イラストを表現する ・完成作品の鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な表現力を身に付ける ・自身の作品の紹介・批評 				
	10月							
	11月	・デッサン（鉛筆）	<ul style="list-style-type: none"> ・線遠近法を利用して描く ・陰影を描く 	<ul style="list-style-type: none"> ・遠近法の基本的な知識を身に付ける ・1点透視図法、2点透視図法、3点透視図法を利用して描くことを学ぶ ・光源の位置と物の形体によってできる陰影について理解を深める 				
	12月							
	1月	・デッサン（鉛筆） ・まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・建築物を描く ・風景を描く ・素描の1年を振り返る 	<ul style="list-style-type: none"> ・遠近法や陰影のつけ方の知識を駆使して描く。 ・遠近法や陰影のつけ方の知識を駆使して描く。 ・1年間の反省と感想 				
	2月							
	3月							
	学習方法	<p>【予習】 副読本は一度目を通しておきましょう。</p> <p>【授業】 基礎知識をしっかりと身に付けよう。授業に集中して精一杯制作しましょう。</p> <p>【復習】 授業で学んだ基礎知識やノウハウがどのように作品制作に役立ったか振り返ろう。</p>						
	評価の観点・評価規準・評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
		<ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩、構想の美しさや表現方法を考え、技法や用具を活用して表現効果を考えた構成をしているか。 		<ul style="list-style-type: none"> ・多様な表現形式の特質を理解し、面や質感を意識し、塊や量感、バランス やムーブメント等の要素を理解し描写しているか。 		<ul style="list-style-type: none"> ・デッサンの多様な表現方法に関心をもち、試行錯誤や創意工夫によって効果的に表現を構想しようとしているか。 		
評価方法		第1・2学期		第3学期		年度末		
<p>評価方法</p> <p>※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。</p> <p>A：主に実技による観点別評価</p> <p>B：主に授業等の活動による観点別評価</p>		<p>実技点：7割 B：3割</p> <p>実技点は作品点で、Bは、授業態度、自己評価、出欠状況等を評価します。</p>		<p>実技点：7割 B：3割</p> <p>実技点は作品点で、Bは、授業態度、自己評価、出欠状況等を評価します。</p>		<p>1学期、2学期、3学期の成績を統合し、夏季、冬季の課題も含め、年間の学習成績として評価します。</p>		
備考								

ビジュアルデザイン

総合学科

教科	芸術	単位数	2単位	対象	2年次	選択群	J②群
使用教科書				副教材等	SBクリエイティブ社「デザイン入門教室」(坂本伸二著)		履修 必履修・ 選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
イラストレーション、デザインを主な分野とした基礎的な創作活動を行います。自分が感じたこと、考えたことを作品に表現したり、鑑賞活動を通して作品から感じたことを言葉で表現したりするなど、デザインに親しむ体験をしていきます。			<ul style="list-style-type: none"> 鉛筆、絵の具、筆など基本的な用具の使い方を理解できる。 基本的なイラストレーションやデザインの感性・技能を身に付け、創造的に自己表現することができる。 友人の作品から良さを感じ取ることができる。 			<ul style="list-style-type: none"> 1年次に美術Iを選択した人も選択できるが、内容が重なるところがある。 美術系学校等進学者は選択するのが望ましい。 前半の内容が同じなので、「素描」と合わせて履修はできません。 	
学習の年間計画	月	単元名	項目	学習内容			
	4月	・デッサン(鉛筆)	・素描の学習と意義	<ul style="list-style-type: none"> デッサンの形、明暗、構図 デッサンのために用いる道具の使い方 アタリや線の使い方 簡単な遠近法や陰影とグラデーションのつけ方を学ぶ 			
	5月		・基本形体を利用して描く				
	6月		・立体感の表現の方法を学ぶ				
	7月		・人物を描く	<ul style="list-style-type: none"> 質感の表現方法を学ぶ 人物の比率や動きなど基礎知識を身に付ける 骨格を利用し、肉付けする方法を学ぶ 服の表現について学ぶ 目や口などの部分の表現について学ぶ 			
	9月	・デッサン(鉛筆)	・人物イラストを表現する	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な表現力を身に付ける 自身の作品の紹介・批評 			
	10月		・完成作品の鑑賞				
	11月	・デザイン	・デザインの原理原則について	<ul style="list-style-type: none"> デザインの基本理論について学ぶ 線や面・余白などの効果を理解し、構成の手法を学ぶ 			
	12月		・ショップ名刺の制作				
	1月	・デザイン	・食品ポスターの制作	<ul style="list-style-type: none"> 文字と写真の使い方を学ぶ。 レイアウトの手法について学ぶ 色彩の基本理論について学ぶ 色彩を効果的に利用する方法を学ぶ ロゴタイプデザインの実例や基本的な考え方を学ぶ 相互鑑賞 			
	2月		・色彩について				
	3月		・パッケージデザイン				
		・まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の反省と感想 				
学習方法	<p>【予習】 準備物を忘れないようにしましょう。作品のイメージを考えておきましょう。</p> <p>【授業】 作品制作が中心になります。作品は、上手い・下手よりも、一生懸命取り組んだかどうか重要です。集中して制作活動に取り組み、自分の気持ちを作品で一杯表現しましょう。</p> <p>【復習】 作品の進み具合が他の人より遅れている場合は、授業外でも制作を進めておきましょう。</p>						
評価の観点・評価規準・評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	・創造的な表現をするために、表現材料や表現形式を選択し、効果的に生かす技能を身に付けているか。		・感性や想像力を働かせて自然や身の回りの造形、芸術作品などのよさや美しさを感じ取り、主題を生成し、表現を構想しているか。		・美術を愛好し、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動に取り組み、その喜びを味わい、創造的な表現と鑑賞の能力を身に付けようとしているか		
	評価方法	第1・2学期		第3学期		年度末	
評価方法	※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に実技による観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価		実技点：7割 B：3割 実技点は作品点で、Bは、授業態度、自己評価、出欠状況等を評価します。		実技点：7割 B：3割 実技点は作品点で、Bは、授業態度、自己評価、出欠状況等を評価します。		1学期、2学期、3学期の成績を統合し、夏季、冬季の課題も含め、年間の学習成績として評価します。
備考							